



宇都宮市立錦小学校 学校だより

にしきの子

第4号 令和5年7月11日 発行者 校長 大森信二

学校教育目標（合言葉）

- 一、しっかり学ぶ 錦の子
- 一、よりよく生かす 錦の子
- 一、なかよく生きる 錦の子
- 一、元気でがんばる 錦の子

第1回校内研修会・授業研究会



7月3日（月）、宇都宮市教育センターから指導主事をお招きし、校内研修会を実施しました。研究授業を実施したのは、2学年の増田教諭と4学年の坂本教諭です。研究のねらいは、児童が自分や友達の考えを基に新たな考えを生み出す力を育むことです。ともに国語科の学習で、2年生は、聞き手に正しく伝える活動、4年生は、役割を意識しながら話し合う活動です。児童は教師の予想を超える反応をみせ、大きな成果を収めることができました。

小中合同あいさつ運動



6月27日（火）・29（木）・30日（金）の3日間地域学校園あいさつ運動を実施しました。陽北中学校から25名程度の中学生が来校し、校門や昇降口付近で大きな声であいさつをしてくれました。中学生のほとんどが本校の卒業生です。お兄さんお姉さんの元気なあいさつに触発され、児童はいつも以上に大きな声であいさつを交わしていました。これからも小中の交流を通し、豊かな人間性を育んでいきたいと思います。陽北中学校の生徒の皆さん、教職員の皆様に感謝いたします。

歯の健康教室（3学年）

7月6日（木）、2校時目に歯の健康教室を実施しました。児童は、染め出し剤を用いて歯の汚れを調べ、正しい歯ブラシの使い方についての説明を受けた後、実際に自分の歯を磨きました。3校時目は、音楽室で学校歯科医の五月女先生から、虫歯の予防や歯と口の健康についてのお話があり、児童は真剣な態度で話を聞いていました。

教職員の体罰等に係る相談

宇都宮市では、教職員の体罰・不適切指導の根絶や指導力向上を図り、信頼される学校づくりに向け様々な取組を行っております。その一環として、保護者からの体罰等にかかる相談の機会を設けております。そこで、相談事案等がございましたら、事前に、校長・副校長までお申し出ください。（☎621-0444）

相談の日時と場所は以下のとおりです。

◇日：令和5年7月24日（月）・25日（火）

◇時間：9時00分から12時00分

◇場所：錦小学校 校長室



◇最新の情報は、本校のホームページでご確認ください◇



水泳の授業（見守りボランティア）

水泳の授業では、熱中症対策と感染防止対策を講じながら、児童の安全を最優先して実施しております。今年度は、保護者の皆様に見守りボランティアへのご協力をお願いしましたところ、多くの方からお声をかけていただきました。1時間の授業で、約4、5の方がプールサイドで児童の様子を見守ってくださいます。暑い中、ご協力いただきまして心から感謝申し上げます。



4学年校外学習（総合的な学習の時間）



6月27日（火）、4学年は、総合的な学習の時間の一環として、クリーンセンター下田原に出かけました。担当のスタッフより、ごみ処理の仕組みやごみの再利用について丁寧な説明があり、児童はメモをとりながら真剣な態度で聞いていました。ゴミに関する内容だけでなく、食品ロスなど日常生活に潜む様々な課題から地球温暖化対策に至るまで、児童にとっても身近であり深刻な内容のお話でした。質問コーナーでは、SDGsに関する質問が出るなど、有意義な校外学習となりました。センター関係者の皆様大変お世話になりました。

『閑さや 岩にしみ入る 蟬の声』（松尾芭蕉）

山形県山形市に、「山寺」の通称で知られる「宝珠山立石寺」があります。その絶景に魅了され、夏に何度か訪れたことがあります。俳聖松尾芭蕉が、山寺で詠んだとされる、「閑さや岩にしみ入る蟬の声」は、「奥の細道」の中でも秀逸な句として知られています。実際に、猛烈な暑さと蟬の大音量の中、1,015段の石階段を登り切ると、山頂の「五大堂」には、疲れを吹き飛ばすような絶景が待っています。そして、芭蕉の俳句に思いをはせながら、いつも幼少の頃がなつかしく思い出され、郷愁を覚えたものです。



今でも、蟬の鳴き声が聞こえてくると、心がワクワクした少年時代の頃を思い出します。特に、夏休みは、早朝から午前中かけて、ニイニイゼミやミンミンゼミの声を聴きながら虫を追いかけ、午後はアブラゼミの大音響の中、川に入り魚をとり、ヒグラシが鳴き始める頃、お腹を空かせて帰路に着いたものでした。朝の5時前に目を覚まし、虫捕りに出かけることもしばしばありました。小川でオニヤンマのヤゴを捕まえ、ランニングシャツの胸元でじっと羽化する様子を眺めました。ヤゴから出て間もない時は色も薄くやわらかな体も、徐々に色が濃くなり、翅が乾いてくると元気に羽ばたいていきます。その間、自分の胸元で起きている自然の営みを、蟬の声を聴きながらじっと観察している時間は、今となってはとても贅沢であったと実感しています。

当時は、スマホやパソコンはありませんでしたが、自然という教科書から学ぶことが多くありました。時が流れ、高度な技術革新や社会環境の変化により私たちの生活は進化を続けていますが、時代を超えても変わらない大切なものがたくさんあります。その一つに、すべての人に平等に与えられている貴重な“時間”があると思います。夏休みは、子供たちにとって一度きりの大切な貴重な時間です。スマホやパソコン、ゲームから離れ、自然と向き合う、そんな贅沢な時間として過ごすことも大切なのではないのでしょうか。児童一人一人にとって有意義な夏休みになりますよう、引き続き、保護者の皆様の見守りや声かけをよろしく願いいたします。